

チケットがなくても楽しめる！

世界陸上 マラソン&

一般道路を使って行われるマラソンと競歩は、有料のチケットがなくても沿道で見ることができ、選手に声援を送れます。世界トップ選手たちの世界一の座を懸けた熱い戦いを、生で、近くで見られるチャンスです。

文／斎藤かおり 写真／BBM、JMPA

マラソンは、一部周回コースを含む国立競技場発着で行われる。まずは、コースを詳しく見ていこう。国立競技場内のトラックを約2周した後、外苑西通りに出て、富久町西の交差点を右折し、靖国通りを東に進む。ここから3kmは約30mを下り、東京ドームのある水道橋を右折して神保町へ。神保町の交差点からは1周約13kmの平坦な周回コース(図の紫ルート)を2周し、神保町から往路と同じルート(図の緑ルート)をたどって国立競技場に戻ってくる。

選手をできるだけ多くの回数、生観戦したいという人にお勧めの場所は、須田町だ。ここは秋葉原への往復の分岐点になっているため、選手が計6回通過する。人気スポットで多くの人が集まると予想されることから、スタート前から陣取ることが必要だろう。

混雑を避けて多くの回数を見たければ、紫ルートの沿道がお勧め。反対車線走る姿を含めれば4回見られ、13kmという広範囲に観戦者がばらけるために、最前列で見られる可能性が高い。

コース周辺に巡らされているJRと地下鉄を使えば、場所を変えて、序盤、中盤、終盤の走りを見ることが出来る。例えば、まず3km付近で観戦後、都営地下鉄の曙橋駅から乗車して神保町、または小川町で下車(乗車時間6〜8分)。

駅を出てすぐの靖国通りで、目の前を通過する選手を2回見送った後(約17km、約22km)、再び都営新宿線で市ヶ谷駅まで戻り、歩いて37〜38kmで声援を送る。この観戦ルートの利点は、選手に4回声援を送れる上に、勝負どころとなる37kmからの上り坂を見られることだ。勝負のあやを目の当たりにできるかもしれない。

あるいは、競技場に入る手前の41km過ぎで全選手を迎えるのも、メダリストだけでなく、暑さのなかで42kmを走り切るトップ選手たちを拍手でたたえるという経験もまた、現地ならではの楽しみ方といえる。いずれにしても、電車をすれば移動の観戦ルートはいかようにもつくれる。選手のペースは3分/kmで計算をし、移動時間と照らし合わせながら自分の観戦ルートをつくらう。

立ち寄り スポット

足を延ばして、今だけの展示やスポットを楽しもう

世界陸上開催を記念して、東京都内では関連イベントが行われている。東京都庁第一本庁舎45階北展望室と2階北側展示スペースでは、9月21日(日)まで「ワールドアスレティクスミュージアム」が開かれている(入場料無料)。男子100mのカール・ルイスやウサイン・ボルトら、世界大会のメダリストや世界記録保持者のウェアやシューズなどの展示のほか、1991年世界陸上東京大会の各競技の決勝の映像を見ることが出来る。

さらに、国立競技場のEゲート付近には、公式マスコットの「りくワン」の銅像が登場。大会終了後には、同敷地内の別の場所に移設するため、国立競技場を背景に撮影できるのは期間限定となっている。



ボルトのサイン入りユニホームなどを展示



りくワン像。フォトスポットにお勧め

競歩 生観戦のススメ

女子マラソン

9/14 日
8:00スタート

男子マラソン

9/15 月 祝
8:00スタート

Marathon Course

マラソンコース



マラソンのルート

国立競技場(スタート)～富久町西～水道橋～神保町～須田町～秋葉原(第1折り返し)～銀座四丁目(第2折り返し)～須田町～神保町～東京駅中央口(第3折り返し)～神保町～水道橋～富久町西～国立競技場(フィニッシュ)

※太字部分は周回コースを2周(コース図の紫ルート)